

【第4分科会】

演題：「子どもと生きるSNS社会の土壌づくり ～ネット社会の素敵な大人とは～」

講師：高木 雅子 氏（熊本市立 江南中学校 教諭）



こんにちは。江南ルールというのがちょっと有名になって、ちょっとだけ賢くなりました。そのちょっとだけ賢くなったことも加えながら、一緒に江南中学校の取り組みについてご報告できたらいいなと思います。ネットルールづくりのあらましとそこでの子どもたちの活躍、教師にできる土壌づくりについて、ここまでを20分くらいでお話しさせていただきます。その後、最後の素敵な大人については、会場みなさん、皆で一緒に考えていけたらいいなと思います。

そこで、肩たたきゲームをしようと思います。自分の肩を1 2 3 4 5 6 7 8、次1 2 3 4 5 6 7 8、最後、膝をたたいて皆でポンといきたいと思います。

心が一つになった気がします。笑っていただいてありがとうございます。では、今この笑顔のままで、1分間コミュニケーションというのをやりたいと思います。今お隣に座ってらっしゃる方たちと一緒にちょっとだけ、今子どもを取り巻く携帯、スマホ、ゲーム機などの利用の中で、困っていることまたはご家庭で職場で取り組んでおられること、今考えておられること、そういったことをできればお近くの方と話してみただけませんか。時間は1分間です。ではよろしいでしょうか、それではどうぞ、話してください。

はい。では、今あった話を紹介していただける方、どなたかいらっしゃいませんか。

（参加者）〇〇小学校の教頭をしています〇〇と言います。携帯の所持率について小学校でもかなり高くなっているんじゃないかと思っています。実際に保護者の方のものやゲーム機まで全て含めると、もう6～7割はいつているのではないかと思います。今、学校の方で気になっているのは、やはり長時間（保護者の方から聞くと最長は午前1時まででしているという話を聞いています）、それから、トラブル、心ない書き込みをしたということで（小学校でもそういうことが起こっている）、今度授業参観等でも保護者の方と一緒に考えながら、というふうに思っています。学校でも非常に大きな問題になってきつつあるな、ということと思っています。

（参加者）〇〇小学校の保護者の〇〇と申します。うちの小学校の卒業生の中でLINEを使って少し動画を使ったトラブルが最近ありまして、学校の方からどう対処しましょう、という問題提起がありました。それから親のスマホを使って友だちとLINEやるんです。その内容を見ていると他愛もないことなんですね。学校で先生の話ちゃんと聞いてないのかな、という所が少し引かかるんですね。だからSNSの関わり方を色々聞きながら、子どもたちと一緒に色々考えていければと思います。

（講師）子どもたちに問題が差し迫っている状況であるということが、それぞれのお話し合いの中でもあったかと思います。まず本校が行ったネットルールづくりについてお話をします。実は「現在の」というところが私の中ではミソです。変化することを前提にということ言っています。まず今年の3月までがちょうど1年前、学年のルールとして江南ルールの元になったものが成立した時期で、4月から



7月にかけてが、全校のルールとして改革に動き出した時期であり2段階目になります。今は3段階目、全校で運用している段階に入っています。

まず、その1段階目についてお話をします。当時2年生だった子どもからネットトラブルの相談があり、私はこの時チャンスと思い、冬休み明けてから学級委員の子どもたちに相談をしたんですね。「ネットルール作らん？日本一ば目指そうか」とかいう感

じで始めました。まず自分たちが困っていることを出し合うということから始めました。子どもたちの本音を引き出す学級会と、それをまとめてルールづくりをする学級委員長会が何度も行われました。学級会の中で、実はこれがすごく大事だったということが分かってきました。なぜなら、実は本当はこのメールのやり取りを早く切り上げたいなと思っているんだけど、何と思われるか分からないから言えないんですね。それが学級会というパブリックな場で自分たちの困り感を言い合えるようになったんです。そして学級委員たちはその課題を整理し、自分たちがルールを作るぞ、という自覚が育っていき

きました。いきなりですが、ここでちょっとブレイクタイム。SNS への意識って一人一人違うのかな、というのを皆さんにも体験していただきたいと思ひまして、LINE で送る資料5枚から、これは許せないな嫌だなと思うのを一番上に、これは許せるというのを一番下に、並べ替えていただけますか。インスピレーションで構いません。終わられたら、さっき話した方と自分の意見を交換し合っていただけますか。どうぞ。

いかがだったでしょうか。ちょっと挙手をお願いしますね。①返信がないのが一番許せない、②会話が終わらないのがちょっとつらい、③自分の話題が出ているのはちょっと心配、④話している時にずっと触っているのは嫌だな、⑤一緒に写っている写真が無断で公開されるのは嫌だなという方。

やはり、手を挙げられる方、違いますよね。子どもたちがやった時も全然違いました。子どもたちはそういう自分たちの一人一人の価値観の違いを出し合いながら、ネットルールについて話し合いをしていきました。インターネットで調べれば分かるじゃないかというご指摘を受けましたが、ここで話し合う過程が大事だと思ひました。かかった時間は何と2ヶ月。3月の学年行事で華々しく発表をしました。でもこの江南ルールは罰則規定があるわけではなく、まさしくモラルです。だから学年のルールを作っても限界があります。

次に、第2弾が始まっていきそれが全校のルールになりました。ここでも、とにかく話し合いをしました。学級会、生徒議会、そしてネットルールを進めていく委員長会、これを推進委員と呼びますが、何回も何回も繰り返しました。その話し合いの結果、足りない所や曖昧な点を修正して、本当に自分たちのルールとして誇りと自覚を持っていったんです。学年の頃よりも進化しているのが、お気づきになられると思ひます。

では、2つ目についてお話をしたいと思ひます。実はこの江南ルール、よくよく読んで、すごいなと思ひます。そこには子どもたちの願いが見えてくるんですね。『健康』、これは自分を守ろう、『友情』、間違いなく友だち、そして『プライバシー』、これは家族を含めた大切な人を守ろうって、守るものがあるルールなんですね。つまり子どもたちは、便利だけど危険なものと隣り合わせだから、守りたいもの、

大切にしたいものを守るためにルールを作りました。その例として、3月に発表、4月に3年生を対象にしてアンケートを取りました。すると、傷つく書き込みがあるという回答が3人ありました。このとき、推進委員のメンバーたちの中から、携帯ショップに行く、スクールカウンセラーの先生にご相談、と動き出したんです。自分たちでアポを取って。警察の方にも電話しました。ただ、あんたたちはまたちょっと違うと言われて、そこは断られたんで行きませんでしたけど、自分たちで動きました。そして動いて学んだことを、皆に伝えたいということで学年集会を開きました。

それから、他のメンバーの中からインターネットでの書き込みによる事件を調べていくと、芸人さんの中に上手な書き込みをする人を見つけ出してくれたんです。それは、井上さんだったんですけど、皆さんだったら、この井上さんになってどう返しますか。井上さんはこう返したそうです……。これ、授業でやったんですけど、教室の中で「うわ、かっこええ」とかいう台詞が来ました。子どもたちって面白いなと思ってみていましたが。この企画は学級委員会で共有しました。そして3年生の全クラスで担任とコラボして情報モラルの授業の場で発表しました。つい2週間前、11月に入ってから江南ルールの全校集会がありましたが、この時は3年生だけではなく、1年生も共同で劇やプレゼンをして発表してくれました。

では、最後に教師のできる土壌づくりについてお話をします。ルールって、「作りなさい」と言われても形はできても魂がこもらないんじゃないか、子どもたちとやり取りしたからすごく思うんです。江南ルールに関わるようになって、私は一緒に考える人という立場に変わりました。また子どもたちの関係も変わっていったんです。お互いに本音を言えずにいたということが分かってきました。考えてみれば、ネットルールというのは各家庭の常識がベースですから、個人で違うんですね。そんなプライベートな感覚で使っていたものをルールづくりという場を設けたことで、パブリックなルールになったんです。実際に生徒議会では、3年生の子がネット社会の利便性は押さえながらも、限界点とかに触れた発言をしてくれたんですね。

もちろんその背景に、私たち教師もいろんな仕掛けをしました。まずは教師による授業です。現在では毎週金曜日、帰りの会で担任による10分間のミニネットモラル学習というのもやっております。さらに情報などに関する特別授業も講師を招いて行いました。子どもたちが制作した題材を使ったワークショップや集会活動、私はこれも情報モラル教育だと思っています。こういったことをずっと仕掛けて、子どもたちが頑張ってくれました。またいろんな人たちに発信したり、アンケートを取りました。発信すれば、必ずいろんな形で反応が返ってきます。またアンケートを取ることで自分たちを客観的に見ることが出来ます。それから江南ルールというのは、ありがたいことにいろんな方たちから注目をさせていただくこととなり、インタビューをしたいんだけどと言われた時に、子どもと会ってくださいとお願いしました。それで真剣にネットモラルについて考えている大人が、真剣に質問をしてくださるんです。

では、本分科会のテーマである素敵な大人とは。ここからは、皆さんと一緒に考えていきたいので、一度ここで私の話を止めたいと思います。

(参加者) ○○小学校の保護者の○○と申します。実際動き始めてから、どこまで子どもたちに任せて、どれくらいアドバイスのことを言ったのかなど、いわゆる大人がどこまで介入しているのかを、もうちょっとお伺いしたいと思います。

(講師) 基本的に、学級から上がってきた困り感をずっと整理していきました。先生から見てこの辺は少し弱いような気がするけどどうなんだろうという意見は言いましたけど、こういう言葉にしないというのは、敢えて言いませんでした。逆にそういった課題の所を学級に持ち帰って考えてもらいました。

基本的に狙いとか方向性というのは手を出しませんでした。色々勉強していく中で、依存症、ネット依存に対しての認識を考えなきゃいけないという課題を、今子どもたちは持っています。そこについては今後の課題ということです。

（参加者）〇〇中学校の〇〇と言います。保護者の方の受け止めですね、発信に対してどんな反応があったかとか、どういう巻き込み方をされたかとか、その辺を聞かせてもらおうとありがたいんですが。

（講師）巻き込みというのも私はまだ足りてないと思っています。保護者の反応というのは、最後にさせていただいていいですか。後で言います。

（参加者）〇〇中学校の PTA 会長をしております〇〇と言います。〇〇中学校では青少年育成課の方と学校の生徒指導の先生方の協力を得まして、保護者向けの SNS についての講習会を行っています。全ての保護者に参加していただくということを目標に日時の設定を変えて、半分くらいの保護者の方の参加が得られましたので、更に個別にお手紙を差し上げて、約 70%の方に参加をいただいております。3 学期には 100%を目指すという方向で取り組みをしております。今子どもたちを取り巻く SNS の環境というのを、ぜひ一人でも多くの保護者の方に知っていただきたいという先生方の熱い思いからきております。実際に携帯の契約をしたり、料金を払うというのは私たち保護者ですので、その保護者をもっと責任を持って、持たせる段階で子どもたちに念を押すことが必要じゃないかということを切々と訴えておられます。

（講師）まさに保護者がしっかりしておくということはすごく大きいことだなと、それを学校が巻き込んでいく手だてとして素晴らしい事例だなと思います。

よくファストフード店とかコンビニとかで子どもたちがゲーム機を持っているのを見かけますが、あそこは Wi-Fi 環境ができていますので、ただでいろんな人たちとつながれるんですね。今はカラオケとかでもできるという話も聞いています。手軽にできるなかで、今年の上半期に出会い系サイトに起因して被害者になった児童が急増しています。なぜこのような児童たちに手を出すことができたのかということを調査された結果です。これをよく見るとすぐに会えそうとか、近所だからとか、個人情報をよく知っています。

子どもたちの間で、特に LINE なんかで宣伝または紹介という言葉で、コミュニケーションサイトに顔写真や個人情報を出すということが今横行しています。ご存知のように、写真には位置情報があります。その子の家が特定できるんです。これは実際にあった本当の話です。またある高校生は親友とツーショットの写真を載せました。問題は制服です。これで高校が分かりました。出したのは一人の子です、ところがストーカー被害にあったのは別の子です。親友が性的被害にあったんですね。二人の未来はどうなっていくんでしょうか。

これはある保育園児への調査です。0 歳から 1 歳の子どもたちがテレビ以外で情報機器に触れている時間は何時間でしょうか。1 時間 36 分です。遠足でバス旅行をした時バスの中は賑わったんですが、あるシートの 1 歳児のお子さんの所がすごく静かで、どうしたんだろうと思ったら、1 歳児のお子さんがママの背中でゲームをしていたんだそうです。もう一つ、保育園児のお父さんがお休みの日に何時間くらい機器に触っているのでしょうか。7 時間 48 分です。休日に 8 時間向かうべきことは他にあるのではないかと、私なんかは思っています。

ここからはちょっと社会的話をします。任天堂がフィルタリングを標準装備で出しましたよね。このフィルタリングを外すのは親の責任ですよ、と全く発想の転換が起きたわけです。これを動かしたのは、アメリカのお父さんとお母さんです。それからグリーは実際にネットセキュリティシステムも凄く強化してあってちゃんと見て下さっています。でも皆さん、フェイスブック、ツイッター、LINE、これはどこの資本の企業でしょう？つまり、グリーは日本ですので日本の子どもを守る義務を持っています。他国の会社はどうなんでしょうか。結局、守るのは親しかいないんです。私は県警の方がおっしゃったことが非常に胸に刺さっています。「ただだから安全ではないんですよ」と。このことを展開していただけるのは、ここに今いらっしゃる方々が、それぞれの学校や社会できっとつないでいただけるのではないかと思います。では子どもたちと一緒にネット社会を生きていくために、どんなことができそうか、していかないといけないか、3回目のワークショップです。どうぞ近くの方と話されて下さい。

皆さんありがとうございました。今、こうして話していただくことが私は凄く大事なことで、素敵なことだと思います。これは本校の3年生がつい先だって書いたくれた日記です。

「文章を書くことが好きになった。一時期やめていたのは、SNS をしていたからかな。お母さんからいつも時間がもったいないよ、と言われていたけど、時間が上手に使えない私は自分で SNS をやめた。だからこれから時間を大切にしていきたい」と書いてくれています。学年通信でよくそのプロセスをお伝えしていきましたので、実は3年生の方が2年生より携帯の所持率が低いんです。それはお家の方たちがきちんと防波堤になっていただいているんだろうなと。

この学年通信は裏面にお家からの返信をいただく部分があって、その返信があの青い部分で、皆で読めるようにしています。いただいたものを紹介すると、例えば12月には、7月に全校採択があったんですけど、すぐ夏休みだったんですね。だから実際に集まったのは12月になったんですが、その時に「良かったね」と言って下さる保護者の方とか、11月の全校集会のことを何度か書いていたんですが、それをすぐにこうやって書いてあって、「いいわよ」と。後ろから追い風が吹いている。こういう温かい風を子どもたちに送り続けていただいている保護者の皆様がいらっしゃいます。



素敵な大人とは、口はばったいようですけど、私はこう思います。真剣に生きている人、そして前向きに考え、行動している人。お休みの日に、こうして来ていただける皆様は、まさにこの方たちだと本当に思います。子どもたちは理屈じゃなくて、その魂のオーラみたいな所で凄く感じ取るんじゃないかと思っています。

最後に、ルールを作っても、トラブルをなくすことはできません。実際に私への相談件数は増えました。仕事が増えました。でも言えるようになったと思ってるんです。本当に一緒に考えて乗り越える力が子どもたちにはあるなと思います。今回の市Pのテーマである、見守り、育てる、素敵な大人がいる、そのベースの中で子どもたちは育っていくのかなと思っております。口はばったいことを一杯言いましたが、こんなところです。ありがとうございました。

～感想～

（参加者）〇〇小学校保護者の〇〇と申します。今回 SNS に関して非常に感心させていただきました。私事ですが、まだ子どもが小学校の3年生と2年生ということで、まだこれから出てくる問題だと予行演習的なこととお聞かせいただいたんですけど、今後我が子が使うようになったら、まず家庭の中でルールづくりをしたいと思います。家庭の中での使い方、こういうことをやったら友だちが傷つくんじゃないとかですね、そういった話できればなと思っています。非常に勉強になりました。ありがとうございました。

（参加者）〇〇中学校の〇〇です。今ここ1週間くらい体験しているんですけど、本当に気の合う友だちとやると、他愛もない会話が1時間も2時間も続くんだというのを体験しました。寝不足になり、返信が来ないのが寂しくなり、5人でしていたグループがついに3人になりました。これを子どもたちが実際に体験しているのか、と子どもの気持ちがこの1週間、同窓会が終わった後にLINEをし始めて分かるようになりました。これを持ってルールづくりを押し付けるんじゃなくて、今聞いた中で、親の姿勢をどう見せるのか、本当に素敵な大人になるために、こういったお手本になれるような親になるかを考えていくことが、今からの問題です。体験したことじゃないと子どもにも語れません。早く寝るためにや、明日朝起きて仕事に行くために今日は10時でLINEを止めよう、とか電源を切ろうとか、こういうことをしっかり守りながら大人になっていきたいと、今日話を聞きましてさらに思いました。ありがとうございました。

（参加者）小学生がいるんですが、まだしないのでお尋ねなんですが、江南中学校でスマホの所持率とかガラケーの所持率とか、全くそういうのをしていないとか、どれくらいなのでしょう。

（講師）今日、数字を持ってきてないのですが、色々います。学年によっても違いますが、一番多い2年生は8割。3年生は6割を切る、2割くらい違います。私は今、スマホ所持率の問題より、ゲーム機の方が問題だと思うんですね。お家の方は、フィルターかけてなかったらスマホはまだ危ないものだと思うっていらっしゃるんですが、音楽プレイヤーとかそっちからのアクセスの方をどれだけ見るかということで、所持率の数字も調べていかなきゃいけないかなと思います。さっき、被害の話がありましたけれども、イメージで女の子というイメージがおありでしたら大間違いで、半分は男の子です。男の子の方にはお家の方の目が緩い。男だけ大丈夫だろうと。でも男の子を好きな人もいます。その被害は変わらないんだということなんです。

素敵な大人っていうのは、子どもに迎合することではないと思います。さっきいろんな方もおっしゃいましたが、「いかんことは、いかん」で、胸を張って言える大人になること、これが大前提です。